

二〇二二年度 出典

第二回

一 東中竜一郎

評論 『AIの雑談力』

二 小池昌代

随筆 『黒雲の下で卵を

あたためる』所収

『川から来る風』

第三回

一 毛利衛

随筆 『宇宙からの贈りもの』

二 志村史夫

評論 『文系？理系？人生を

豊かにするヒント』

光塩国語入試の特徴

①問題文の内容を的確に読み取る力・読解力を重視しています。

例―一の問二・問五・問八、二の問五・問八

②言葉に対する感覚を大切にして
います。

例―一の問一(2)、二の問一(2)

③二、三行もしくは百字程度の記述問題を通して、書く力を評価
します。

例―一の問九、二の問九

過去問説明会

2022.12.3

国語

光塩女子学院中等科

光塩国語入試の これまでの傾向

文章が二つ、出題されます。

- 文章と問いとを合わせて
B5サイズで10～11ページ。

- 文章の長さは、やや長め。

- ジャンルも内容も多岐にわたっています。



「AIと人間の関係が変わったから」

・次段落より



「AIとのやり取りが双方向になりました。」

・さらに次の一文(P11九行目)には
「AIが**社会の一員**になってきていることを意味します。」とある。

よって解答は

・AIとのやり取りが1 **双方向**になり、

AIが2 **社会の一員**

として人間と

うまくやっていく必要が生じたため。

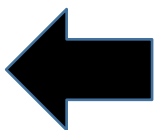
- 記述問題問九に答える前に、「雑談」の役割を考える読解問題に答えましょう。

問五―③ 「雑談が人間関係に重要な役割を果たしている」(P2―五行目)とありますが、この後筆者は「重要な役割」についてくわしく説明します。筆者が考える三つの役割を説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉を五字以内で本文中から抜き出ささい。

- 「雑談」の役割について書かれているのはP2―六―十四行目まで。
三つの役割を一つ一つ見ていきましょう。

☆本日のテーマ

読解を踏まえての記述問題
にはどのように答えていけば
よいのでしょうか？



二〇二二年度入試問題の

第二回 一・二 にチャレンジしま
しょう。

第二回 一 『AIの雑談力』

6

文章のテーマ ↓ AIの雑談力

・まず、記述問題の助けとなる読解問題に取り組みましょう。

問二ー① 「なぜAIが雑談を始めたか」について、その理由を説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉をそれぞれ五字以内で本文中から抜き出さない。

・①の直後にその理由が書かれている。(P1ー五行目)

「AIと人間の関係が変わったから」

問九Ⅱ 「雑談AIの研究」を筆者は重要であるにとらえています。本文と同じ書籍の別の箇所を用いた次の文章を読んで、雑談AIの研究が重要だと筆者が考える理由を書きなさい。

・これまで見てきた問Ⅱ・問五からわかったことと、問九の引用文をよく読んで、「雑談AIの研究」がなぜ必要なのかを考えていきましよう。

・では問九の引用文を見ていきましょう。

二行目 ↓ コンピュータとの雑談は
必須のものになっていく

六行目 ↓ コンピュータに何を任せ
かを決定するのは日ごろ
からの信頼であり、
ベースとなるのは雑談に
よるやり取りです。

八行目 ↓ お互いを理解し合うこ
とで、より良い作業がで
きるのは人間でもコン
ピュータでも同じこと。

十行目 ↓ 人間とコンピュータがお
互いのよいところを引
き出せるようになる。

①言葉を交わすこと自体が仲間意識⁹を確認するものであるということ。

二つめは次段落、三つめはさらに次の段落に書かれています。よって解答は

②相手の1人となりを知り、

2 協力関係を築くこと。

③ 3 第三者について話題にすること

で、人間関係を4 調整すること。

問二と問五からわかったことは

・AIと人間との関係が変わり、
AIとの雑談が必要になった。

・雑談は、人間関係に重要な三つの役割を果たしている。

・では、相手がAIの場合も雑談は必要なのでしょうか？



P3ー二、十二行目↓生駒市の案内を
する対話システ
ム「だけまるく
ん」の例

問六に、④「ユーザは生駒市の
ことをそれほど聞かなかつた」
とあり、その二行後には「雑談を
多くした」とある。



人間は相手がAIであつても
雑談してしまう特性がある。

・まず問五によって、「川風」がどのようなものだったのかを見てみましょう。

P8―六行目 ↓ 川を渡ってくる風は
冷たくさわやかで、
一気にB目^①がさめる
ようだ。

P8―七行目 ↓ ④川風、それは、海
から来る風とも、春
風のようなものと
も違う。

P8―十行目 ↓ あらゆる憂慮を軽く
してくれるような風

P9ー十一行目↓**穏やかさ**がある。

P9ー十二行目↓**颯爽と吹き、**

心の塵を払ってく
れるような**浄化**
力がある。

よって問五の解答は

1 **憂慮を軽く**してくれる。

3 きりつとした中にも

穏やかさがある。

4 **心をきれい**にしてくれる。

問五でみてきた「川風」は、ー⑥(P
9ー十三行目)では「川からの贈り
物」と表現されている。

問九の解答例

人間がコンピュータのよいところをひきだすためには人間のコンピュータに対する信頼が必要であり、その基本は雑談である。雑談AIを研究することで人間とコンピュータとのコミュニケーションに役立てることができるところから。

- ・「理由」を問われているので、「から」留めで結びましょう。

第二回 二 「川から来る風」

14

・問九が百字記述の問い

問九ー「川風、あるいはくすぎないのだろうか」とありますが、筆者にとつての「川風」、友人にとつての「雨粒」のように、記憶に残っている自然現象や自然の風景をあげ、それがどのように心に残っているかを、百字以内で書きなさい。

・筆者にとつての「川風」がどのようなものだったのかを見てみましょう。



・問五・問八を手がかりにしましょう。

◎解答例

気分が落ち込んでいる時に夜道を歩いていたら、^①夜空に明るく光っている黄色いきれいな満月を見た。それは、落ち込んでいた自分に何かを語りかけているようで、^②満月から勇氣をもらえたので、とても心に残っている。

◎気をつけてほしいこと。

①本文の要約や筆者の体験ではなく、**自分の体験を書くこと**。

②自然現象や風景の説明を長く書き過ぎない。どのように心に残ったかを書くことが重要。

記述問題に関してのアドバイス

○設問をよく読み、求められている内容をとらえて書き始める。

○「です・ます」調より「だ・である」調で簡潔に。

○字数指定がある場合、九割以上書きましょう。

○書いた後、必ず読み直しましょう。

- ・誤字・脱字はないか。
- ・主語と述語は対応しているか。
- ・第三者が一読して意味のわかる文になっているか。

○百字記述は、読解の最後にあることが多いので、それまでの問いをヒントに、取り組みましょう。

問八を解くことで「わたし」の川に対する気持ちを読み取りましょう。

ヒントは―⑥の直前にあります。

あるとき、まさことわたしのあいだに吹いた風。



問五でみたように、その風は「憂慮を、ほんの少し軽くしてくれる」もので、その風の吹いた後、筆者はまさこと並んでサイダーを飲んだ。



P8ー十六行目↓仲直りしたと感じた

P8ー二十三行目↓まさことわたしの

関係のあいだに、
風がおこった

まさ」とわたしの関係のあいだに、
ジャストタイミングで、颯爽と風が
おこったという」と(P8ー二十三行目)



アまさ」とのわだかまりをとり払っ
てくれた川に感謝する気持ち。

・「わたし」にとつての「川風」がわかつ
たところで、問九に取り組みましょう。

◎ポイントは二つ。

①あなたの記憶に残っている自然現象
や自然の風景を挙げる。

②どのように心に残っているかを書く。

♡ 国語というものは、皆さんがこれまで見たたり、聞いたりしたもの、心を動かされたものなど、すべての経験を活かせる教科です。

その経験が思考の豊かさにつながり、記述問題にも生きてくるはずですよ。自分の力を信じて頑張ってください。

過去問を時間内に解く練習を繰り返し行いましょう！

答案を通して皆さんと出会えることを楽しみにしています。

